

ケニア

2020年11月20日

海外調査部・ナイロビ事務所

■経済成長率は5.4%と前年からやや鈍化

2019年の実質GDP成長率は5.4%で前年の6.3%を0.9ポイント下回り、1人当たりGDPは1,817ドルだった。成長率を産業別にみると、名目GDP構成比が34.1%で最大を占めた農業は3.6%増で、前年を2.4ポイント下回った。2019年は通常4月から2カ月ほど続く大雨期の開始が遅れ、干ばつが発生し、農産品の生産に影響した。それに関連して食料品の価格が上昇し、食料品の消費者物価上昇率は前年より5ポイント高い6.4%、全体の上昇率は前年より0.5ポイント高い5.2%だった。

ホテル・レストラン業（構成比0.7%）は10.3%増と好調だったものの、前年から6.3ポイント減だった。ケニア航空のニューヨーク直行便が引き続き運航、エールフランスが週3便から5便へ増便、カタール航空がドーハ－モンバサ間の直行便を就航するなど空路は拡大し、欧州からの来訪者が減少したものの、外国人来訪者数は前年より0.4%多い203万5,400人だった。情報通信業（1.2%）も前年から2.5ポイント減だったものの、8.8%増と好調だった。携帯電話の普及が情報・通信業の成長を下支えし、携帯電話加入件数は、2019年末時点で人口比約114.5%の約5,456万件で前年比10.2%増だった。モバイルマネーの決済額は、名目GDPの約45%に当たる4兆3,460億ケニア・シリング（前年比9.0%増、約4兆3,460億円、1ケニア・シリング＝約1円）だった。

2020年に入り新型コロナウイルス感染拡大で経済活動が制限される中、天候不順も続いている。例年は11月から1カ月ほど続く小雨期が長期化し、降雨量の増加やサバクトビバッタの大量発生が農業、観光業、消費市場に与える悪影響が懸念される。ケニア統計局は2020年の経済成長率予測を6.1%から2.5%に下方修正、国際通貨基金（IMF）は1.0%と予測している。

■貿易は輸出入とも減少

2019年の貿易は、輸出が前年比3.8%減の57億7,940万ドル、輸入は1.4%減の170億5,268万ドルとなり、貿易赤字は112億7,329万ドルだった。主要輸出品目は「コーヒー、紅茶、スパイス」「樹木、切花、根」で、輸出額の34.0%を占めた。2020年はケニアで新型コロナの感染が確認された3月以降、国際商用便停止のため貨物便の輸送量が著しく下がったことから、特に切花の輸出が伸び悩んでいる。

最大の輸出相手国は、前年に引き続きウガンダ（構成比10.7%、前年比1.9%増）だった。前年第2位のパキスタンへの輸出額は、紅茶の国際価格の下落などで、24.4%減少した。米国向けは8.4%増で好調に推移した。主に輸出加工区（EPZ）で加工した縫製品や、食用ナッツ、コーヒーなどを輸出している。一定の条件を満たした製品は、米国のアフリカ成長機会法（AGOA）に基づき関税が撤廃されている。ケニアは2020年2月、米国との二国間自由貿易協定（FTA）の交渉を開始すると発表した。

輸入を品目別にみると、構成比で上位の鉱物性燃料、鉱物油、蒸留物とボイラー、機械類と自動車

などをはじめ、ほとんどの品目が前年に比べ減少した。中古車を含む年間の自動車登録台数は10万5,413台（前年比9.4%増）と好調に推移したが、新車販売台数は7.3%減の1万2,981台だった。自動車にかかる物品税の引き上げやナンバープレートの発行遅れによる輸入手続きの遅延が影響したとみられる。輸入を国別で見ると、最大の相手国である中国は、標準軌鉄道（SGR）建設の終了で機械や輸送機器の輸入が減少し、2年連続で減少した。なお、中国からの原材料などの輸入は2020年3月、中国側の供給遅滞を受け減少し、ケニアの製造業の活動が停滞した。ケニア民間セクター連合（KEPSA）によれば、打撃を受けた製造業者は67%に上るといふ。

表1 ケニアの主要品目別輸出入（通関ベース）

（単位：1,000ドル、%）

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
コーヒー、紅茶、スパイス	1,605,069	1,326,010	22.9	△17.4	鉱物性燃料、鉱物油、蒸留物	3,367,494	3,291,992	19.3	△2.2
樹木、切花、根	620,826	639,059	11.1	2.9	ボイラー、機械類	1,653,066	1,624,384	9.5	△1.7
鉱物性燃料、鉱物油、蒸留物	383,937	447,345	7.7	16.5	電子機器	1,196,582	1,255,155	7.4	4.9
衣類（メリヤス編およびクロセ編以外）	216,664	228,752	4.0	5.6	自動車	1,221,519	1,197,597	7.0	△2.0
食用野菜、根	248,300	222,552	3.9	△10.4	鉄鋼	854,002	906,877	5.3	6.2
食用果物、ナッツ	231,417	202,401	3.5	△12.5	穀物	883,009	849,418	5.0	△3.8
鉱石	210,816	193,124	3.3	△8.4	プラスチック製品	763,741	726,883	4.3	△4.8
動物性・植物性の油脂、調製食用脂、動物性・植物性のろう	138,383	138,383	2.4	0.0	油脂	563,002	555,681	3.3	△1.3
鉄鋼	111,994	133,497	2.3	19.2	医療用品	554,511	552,768	3.2	△0.3
原子炉、ボイラーおよび機械類ならびにこれらの部分品	98,319	130,390	2.3	32.6	紙およびパルプ	420,661	384,872	2.3	△8.5
合計（その他含む）	6,005,348	5,779,396	100.0	△3.8	合計（その他含む）	17,294,603	17,052,685	100.0	△1.4

〔出所〕ケニア国家統計局

表2 ケニアの主要国・地域別輸出入（通関ベース）

（単位：1,000ドル、%）

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2018年	2019年				2018年	2019年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ウガンダ	606,082	617,690	10.7	1.9	中国	3,633,036	3,552,938	20.8	△2.2
米国	464,264	503,304	8.7	8.4	インド	1,814,128	1,688,865	9.9	△6.9
オランダ	454,257	465,649	8.1	2.5	アラブ首長国連邦	1,446,378	1,617,386	9.5	11.8
パキスタン	581,413	439,404	7.6	△24.4	サウジアラビア	1,692,177	1,235,575	7.2	△27.0
英国	393,741	387,283	6.7	△1.6	日本	980,227	937,329	5.5	△4.4
アラブ首長国連邦	343,043	375,477	6.5	9.5	南アフリカ共和国	635,018	681,289	4.0	7.3
タンザニア	291,404	325,918	5.6	11.8	米国	521,176	581,186	3.4	11.5
ルワンダ	174,793	224,566	3.9	28.5	インドネシア	451,563	477,589	2.8	5.8
エジプト	197,125	183,821	3.2	△6.7	ドイツ	457,376	431,281	2.5	△5.7
中国	109,078	146,806	2.5	34.6	エジプト	355,931	411,999	2.4	15.8
合計（その他含む）	6,005,348	5,779,396	100.0	△3.8	合計（その他含む）	17,294,603	17,052,685	100.0	△1.4

〔出所〕ケニア国家統計局

■対内直接投資額は前年比18.1%減

国連貿易開発会議（UNCTAD）によれば、2019年はITやヘルスケア分野での新規投資案件があった一方で、対内直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は前年比18.1%減の13億3,200万ドル

だった。ケニアを含む東アフリカへの直接投資額も9%減となった。外資系企業の主な動きとして、英国タローオイルによる15億ドルの追加投資があった。小売分野では、ボツワナ拠点のスーパーマーケット・チェーンであるチョッピーズが、ケニアからの撤退を表明した。金融分野では、ナイジェリアの大手商業銀行アクセス銀行がケニアのトランスナショナル銀行の買収を発表した。

■日本の貿易黒字縮少、IT企業へ出資が進む

日本の「貿易統計」(通関ベース)によると、2019年の日本のケニアに対する貿易黒字は前年比5.6%減の7億8,300万ドルに縮小した。日本の輸入額の23.1%を占めたスパイス・コーヒー・茶が好調で、茶は14.3%増だった。切花などの樹木・植物(構成比18.8%)は6.3%減と低調だった。なお、輸入する切花の91.3%がバラで、日本のバラ総輸入額のうち49.4%を占めた。日本の輸出の66.5%を占めた車両は0.2%減とほぼ横ばいだった。そのうち、乗用自動車は1.9%減と低調で、原動機付きシャシーが51.4%増と好調だった。

日本企業の動向としては、現地で活動するIT企業への出資・連携があった。ソフトバンクの子会社のHAPSモバイルは、ケニアで気球を活用したインターネット普及を目指す米国ルーンへの出資を決定した(2019年4月25日発表)。豊田通商はケニアの無電化地域でミニグリッド事業を展開する米国パワーハイブに出資参画(同年7月5日発表)、三菱商事はケニアを中心とするサブサハラ・アフリカで分散型電源事業を展開する英国ビーボックスに出資参画(同年8月28日発表)、住友商事はケニアを本社とするミニグリッド事業のウインドジェン・パワーに出資参画(2020年4月23日発表)を表明した。また、いすゞイーストアフリカは現地のNIC銀行と連携し、中小企業に対し商用車購入時の融資(2019年9月18日発表)、トヨタ・ケニアはファミリー銀行と連携し、自動車を購入する中小企業向けに新型コロナウイルス禍における優遇融資サービス(2020年5月19日発表)を開始した。

表3 日本の対ケニア主要品目別輸出入(通関ベース)

(単位:100万ドル、%)

	輸入(CIF)				輸出(FOB)				
	2018年	2019年			2018年	2019年			
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
スパイス・コーヒー・茶	15.4	16.5	23.1	7.1	鉄道用以外の車両	569.6	568.2	66.5	△0.2
茶	7.0	8.0	11.2	14.3	乗用自動車	401.7	394.0	46.1	△1.9
コーヒー	8.1	7.4	10.4	△8.6	貨物自動車	141.2	144.1	16.9	2.1
樹木・植物	14.3	13.4	18.8	△6.3	原動機付きシャシー	10.7	16.2	1.9	51.4
切花、花芽	10.7	10.4	14.6	△2.8	自動車部品および付属品	6.8	6.8	0.8	0.0
植物の葉、枝、草、コケ、その他	2.0	2.0	2.8	0.0	鉄鋼	157.3	172.0	20.1	9.3
鉛石、スラグおよび灰	—	11.0	15.4	全増	鉄または非合金鋼のフラットロール製品 (熱間圧延をしたもので600ミリ以上)	139.6	164.9	19.3	18.1
銅	7.9	8.0	11.2	1.3	鉄または非合金鋼のフラットロール製品 (めっきまたは被覆したもので、600ミリ以上)	14.0	3.9	0.5	△72.1
コーヒー・茶のエキス、エッセンス、濃縮物	7.6	6.3	8.8	△17.1	ボイラーおよび機械類、部分品	90.4	26.5	3.1	△70.7
食用果実・ナッツ	3.5	5.2	7.3	48.6	蒸気タービンおよびパーツ	31.4	0.7	0.1	—
貴金属	1.5	3.1	4.3	106.7	ピストン式火花点火内燃機関	3.8	4.6	0.5	21.1
魚のフィレ、魚肉	2.5	3.0	4.2	20.0	医療用免疫血清	11.9	9.2	1.1	△22.7
採油用の種および果実、播種用の種、果実	1.0	1.6	2.2	60.0	短繊維織物	6.0	9.2	1.1	53.3
合計(その他含む)	68.6	71.4	100.0	4.1	合計(その他含む)	898.1	854.4	100.0	△4.9

[出所] 財務省「貿易統計」(通関ベース)を基に作成

主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口：4,756万人（2019年）			
②面積：58万2,646km ²			
③1人当たりGDP：1,817米ドル （2019年）			
④実質GDP成長率（%）	4.8	6.3	5.4
⑤消費者物価上昇率（%）	8.0	4.7	5.2
⑥失業率（%）	2.7	2.6	2.6
⑦貿易収支（100万米ドル）	△10,943	△11,326	△11,860
⑧経常収支（100万米ドル）	△5,688	△5,048	△5,559
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	7,353	8,196	9,115
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	22,718	26,890	30,462
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ケニア・シリング、期中平均）	103.41	101.30	101.99

〔注〕 ⑦⑧⑩：ケニア・シリング建てをドル換算
 〔出所〕 ①②④⑤⑦⑧：ケニア国家統計局、③⑥：世界銀行、⑨⑪：IMF、⑩：ケニア中央銀行

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp